



久良岐能舞台で「野外特設舞台公演」を今秋開催

山井綱雄・デーモン閣下・中井智弥による「能魔弐三重箏」を上演

久良岐能舞台

久良岐能舞台（横浜市磯子区岡村、館長：川井康裕、横浜市指定管理者：㈱シグマコミュニケーションズ）では、10月24日（土）に薪能を彷彿させる庭園広場での「野外特設舞台公演」を開催いたします。

上演演目は地元在住の金春流能楽師・山井綱雄（謡・舞）、日本の伝統文化にも造詣が深いデーモン閣下（朗読・歌唱・脚本）、二十五絃箏の奏者・中井智弥（二十五絃箏）による「能魔弐三重箏（のうまいさんじゅうそう）」で、能楽、ロック、箏曲のジャンルを超えた3人の演者が共創するオリジナルの作品となります。

この「能魔弐三重箏」は、「源氏物語」に着想を得て能の名曲である「野宮（ののみや）」と「葵上（あおいのうえ）」を題材に六条御息所の想いを描き出した作品で、2019年12月の豊田市能楽堂（愛知県）、2021年5月の東京文化会館（東京都）での上演に続き、今回が5年ぶり3度目の上演です。

久良岐能舞台の約8千坪の庭園内に仮設の野外特設舞台を設え、会場内に約400席の客席を用意する予定です。但し、公演当日が雨天の場合は会場を横浜市南公会堂（横浜市南区浦舟町）に変更します。

なお公演のチケットは、5月7日（木）から先行販売（「久良岐能舞台」で申込受付）、6月1日（月）から一般販売（「久良岐能舞台」、「チケットぴあ」）を開始（全席・自由席6,500円）いたします。

久良岐能舞台が主催する「能魔弐三重箏」の公演の概要は下記のとおりです。

記

- 名称 「能魔弐三重箏（のうまいさんじゅうそう）」
- 主催 久良岐能舞台（くらきのうぶたい）
- 日時 2026年10月24日（土）17時30分開演（開場16時30分）
- 会場 久良岐能舞台 庭園広場・野外特設舞台（但し雨天の場合は横浜市南公会堂に変更）
横浜市磯子区岡村8-21-7
上大岡駅からバス約10分または磯子駅からバス約15分「笹堀」バス停下車徒歩7分
（または上大岡駅から徒歩約20分）
- 出演 山井綱雄（謡・舞）
デーモン閣下（朗読・歌唱・脚本）
中井智弥（二十五絃箏）
- 料金 6,500円・税込（全席・自由席）
- 販売開始 《先行販売》2026年5月7日（木）～5月31日（日）「久良岐能舞台」で申込受付
【電話番号】045-761-3854 【ホームページ】<https://kuraki-noh.jp/index.html>
《一般販売》2026年6月1日（月）「久良岐能舞台」、「チケットぴあ」
- 定員 400名（予定）

以上

【お問い合わせ先】 久良岐能舞台（くらきのうぶたい）

<館長>川井康裕 <担当>佐々木豊

【TEL】045-761-3854 【E-mail】dlpkawai@me.com

【参考】 「能魔弐三重箏」の公演概要

○公演の内容

■能舞幺三重箏（のうまいさんじゅうそう）

「能」楽師の山井綱雄、「魔」性ロックアーティストのデーモン閣下、二十五絃「箏」奏者の中井智弥。異なる世界から生じた三名が出逢い、新たな芸能「能魔幺三重箏」が生まれる。『源氏物語』に着想を得て、能の名曲「野宮」・「葵上」を題材に、六条御息所の胸に宿る悲しみと激しい想いを、静かに、そして鮮烈に描き出す。デーモン閣下の朗読・歌唱・脚本、山井綱雄の謡と舞、中井智弥の二十五絃箏それぞれの響きが重なり合い、ひとつの世界を紡ぐ。

新能を思わせる能舞台庭園の野外特設舞台。炎と闇、音と静寂が交錯する中で、日本の伝統芸能・楽の音と超界の技が溶け合い新たな表現がいま、立ち上がる。ロックアーティストのデーモン閣下、能楽師の山井綱雄、二十五絃箏奏者の中井智弥の三名が共演する新しい芸能「能魔幺三重箏」。

○出演者の紹介

■山井綱雄（やまい つなお）

金春（こんばる）流能楽師。重要無形文化財（総合指定）保持者。（一社）「能の心を未来に伝える会」代表理事。（公社）「能楽協会」本部理事。（公社）「金春円満井会」常務理事。（公社）「芸団協」実演芸術振興委員。5歳で初舞台以降数々の能楽大曲秘曲を披演。能講座、学校公演、海外公演多数開催。デーモン閣下はじめ他ジャンル芸術家との共演創作作品多数。金春流は能楽最古の流派。能楽に内包する古来からの日本の心を説き明かし本当の「日本の心」の復活と啓蒙活動に奔走している。2025年日本政府主催クールジャパン「CJPF アワード 2025 ムービー部門」にてグランプリ受賞。

■デーモン閣下（でーもん かつか）

芸術性と娯楽性の融和、和の伝統芸との共作・共演は約40年間のライフワーク。尺八・三橋貴風氏との主催朗読歌劇「デーモン閣下の邦楽維新 Collaboration」は26年目93回に至り、山井綱雄氏とは津軽三味線・上妻宏光氏との「能舞音楽劇『義経記』」や、笛方・一噌幸弘氏との『未来の古典』創り活動「幽玄悪魔」（どちらも10年以上継続）、「冬月能」（豊田能楽堂）等で幾たびも共演。上海万博では「文化交流大使」も執務。広島県がん検診啓発特使、早大相撲部特別参与、厚労省”上手な医療のかかり方”名誉大使。地球デビュー41年目の本年、Rockな魔楽団・聖飢魔IIは再集結期間・暫定延長にて大黒ミサ tour「Season II」を5月～9月に全国20カ所で敢行。公式 web site: <http://demon-kakka.jp/>

■中井智弥（なかい ともや）

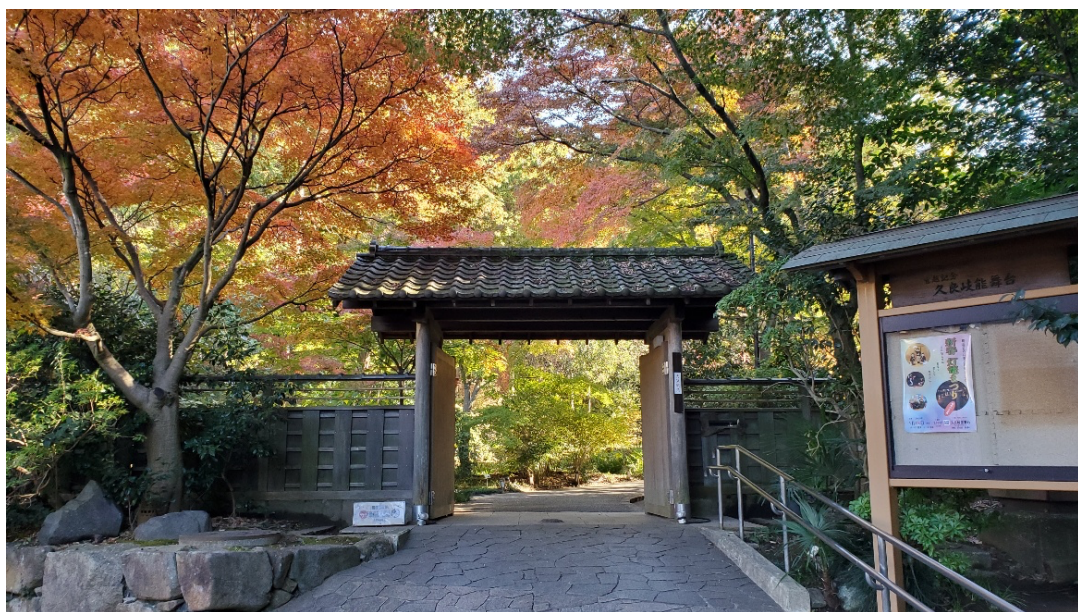
東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。伝統的な箏や地歌三絃の演奏も行いつつ「二十五絃箏」の演奏をメインに活動。NHK・Eテレ「すごいぞにつぼん！古典芸能・最新形」等に出演。これまでソロアルバム7枚リリース。海外公演では外務省や大使館等のイベントにて文化交流を担う。日本・スウェーデン外交関係樹立150周年記念イベントに出演しオープニングコンサートを飾る。「ART 歌舞伎」、「歌舞伎刀剣乱舞」（月刀剣縁桐・東鑑雪魔縁）に出演・音楽を担当。三重県文化功労賞受賞。芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

以上

【参考】



「能魔斗三重箏」出演者
(左から山井綱雄、デーモン閣下、中井智弥)



久良岐能舞台（正門）

【参考】

「久良岐能舞台」の概要

- 名 称 久良岐能舞台（くらきのうぶたい）
- 所在地 横浜市磯子区岡村 8-21-7

- 館 長 川井康裕 (かわい やすひろ)
- 所有者 横浜市 (所管：にぎわいスポーツ文化局・文化振興課)
- 指定管理者 株式会社シグマコミュニケーションズ
東京都品川区大崎 4-1-2
代表取締役社長 角 宣広 (すみ のぶひろ)
- 管理面積 4,581 m² (久良岐能舞台・管理区域面積)
- 建築面積 342 m² (木造平屋建)
- 施設概要 能舞台 (舞台 4.5m×4.56m、橋掛り 1.6m×3.6m、見所 52 畳)
和 室 (6 畳、8 畳)
茶 室 (4.5 畳、水屋 3 畳)
庭 園 (和風庭園、広場、野点)
- 開 業 1987 年 10 月
- 開館時間 9 時～22 時 (夜間利用がない場合は 17 時閉館)
- 休館日 毎月第 3 月曜日 (祝日の場合は第 2 月曜日)、年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日)
- HP/URL <https://kuraki-noh.jp/index.html>

<「能舞台」の現在に至る経緯>

久良岐能舞台の「能舞台」は、大正 6 年 (1917 年) に社団法人能楽会専務理事の池内信嘉氏が囃子方養成のため東京・日比谷に建てたもので、その後、東京音楽学校 (現・東京芸術大学) に寄贈され、邦楽科の能楽専科生に利用されてきました。

この「能舞台」からは、後の人間国宝をはじめとする多くの囃子方の能楽師が育っていきました。

昭和 39 年 (1964 年) に東京芸術大学に新しい能舞台ができたことに伴い、横浜の実業家で能楽愛好家でもあった宮越賢治氏が譲り受け、昭和 40 年 (1965 年) に宮越氏自身の自宅であった現在地 (横浜市磯子区岡村) に移築復元しました。

昭和 60 年 (1985 年) に、宮越氏から所有する「能舞台」のある建物と約 8 千坪の土地が横浜市に寄贈されて、横浜市が建物の能舞台・和室・茶室と庭園等の整備を行った後、昭和 62 年 (1987 年) から一般の利用に供しています。

「能舞台」の管理運営は、磯子区、横浜市芸術文化振興財団の手を経た後、平成 18 年 (2006 年) から横浜市の指定管理者として株式会社シグマコミュニケーションズが業務を担当しています。

現在は、「能」・「狂言」の公演をはじめとするさまざまなイベントの会場のほか、能楽 (謡・仕舞、囃子)、日本舞踊、茶道、書道などの講座会場、能楽や和楽器の稽古や発表会の会場、婚礼写真の撮影会場など幅広い用途で活用されています。

なお「能舞台」の舞台の鏡板は、明治から昭和にかけての日本画壇の重鎮で日本画家として活躍した平福百穂 (1877～1933 年) 画伯の筆になる貴重なものです。

以 上